

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭56—43984

⑫ Int. Cl.
B 26 B 21/18

識別記号

庁内整理番号
7041—3C

⑬ 公開 昭和56年(1981)4月22日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 往復安全剃刀

⑮ 発明者 林三鶴

川崎市高津区向ヶ丘921の4

⑯ 特 願 昭54—119012

⑰ 出 願 人 林三鶴

⑱ 出 願 昭54(1979)9月17日

川崎市高津区向ヶ丘921の4

明 細 書

1. 発明の名称 往復安全剃刀

2. 特許請求の範囲

前刃を前傾前方向に、後刃を後傾後方向に、且つ、前刃と後刃で構成する角度は180°以下で、刃先を下方に向けた、往復安全剃刀。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、前方向と、後方向に、刃を設けて、前進（引く）、後進（押す）共に、毛が剃れる、往復動作の安全剃刀に関する。

従来は、前進（引く）のときのみ、毛が剃れるが、後進（押す）は毛を剃る事が出来ず、非常に非能率であり、又、逆剃りをする場合は、その都度、安全剃刀を、持直し、特別に逆剃りを行なう必要があつて非常に不便であつた。

本発明は、この欠点を除き、前後進共に、毛が剃れて、安全剃刀を、持替える事なく、自動的に、逆剃りも出来る往復方式の安全剃刀を提供するものである。

本発明の実施例を図面によって説明すると、第

1図は本発明の第1実施例であつて、ベース1は、前後と後傾に、各々剃刀の刃が、皮膚の切傷を妨ぐ為の嵌片2、2と、その内側に、剃った毛を排出する窓3、3及び中央に縦ね道V字型の凹部4を設ける。その凹部4の前辺に前刃5を、後辺に後刃6を、押え具7で、ネジ（ネジで締付ける）、パネ（例えばばり型のパネを）等をベース1に固定して、他端との間に、押え具7と前後刃5、6と共に、又は前後刃5、6のみをさし込む、吸引力（ベース1又は押え具7に、又は両者に磁石して吸引力の吸引力で、前後刃5、6を吸引する）等により取付け、ベース1の中央上部に把手8を設けたものである。

本発明を使用するには、従来の如く、石鹸液等を皮膚に塗布、前刃5と、後刃6を皮膚に均等に押し当て、把手8にて、前後刃5、6と直角方向に、前進（引く）及後進（押す）を繰返すと、前進は前刃5にて、後進は後刃6にて、それぞれ毛を剃る事が出来る。

嵌片2、2は、前後刃5、6の長溝への嵌込

みを防止しているのも、切傷する事なく安全であり、剃った毛は、それぞれ図3、3より排出されるので、円滑な剃剃り等が出来る。

第3図は第2実施例であつて、把手8の代りに、従型の柄9をベース1の中央上部に取付け、柄9にて往復操作して、毛剃りするものである。

第4図は第3実施例であつて、把手8の代りに、突片10を設けて、人差し指と中指等の間に挟み、手で皮膚(部)を握るが如く往復運動をして毛を剃ることが出来る。

尚、突片10を指間に適合するよう図の如くY字型にすると安定した保持が出来る。

第5図は本発明の第4実施例であつて、案内片2、2の外側に、スポンジ、泡野の弾性体11を設け、把手8の代りに、把手兼容器12を、ベース1の中央上部に設け、容器12の1部に孔を設けて、弾性体11に直接又はパイプ等を介して接続して、容器12に石鹸液等を充填すれば、液は弾性体11を潤すので本発明の往復安全剃刀を使用すると皮膚に自動的に石鹸液野が塗られる。

- 3 -

ロ、従来は逆剃りするにはその程度、安全剃刀を持替える必要があつたが、本発明の往復安全剃刀は、その必要はなく、常に逆剃時は、自動的に逆剃りが行なわれているので、迅速にきれいに、毛剃りが出来るので、前記1項に加えて高効率となる。

ハ、第3図の第2実施例を除いて、把手8又は把手8に相当する突片10容器12ライター13は、或る程度小型の方が操作は容易であり、又、前後刃5、8間の間隔が狭い程、効果的に毛が剃れる。従而、従体として非常に小型、軽便であるので、常にポケットにしのばせて携帯が出来るので随時使用出来る。

ニ、第3図の第2実施例の柄9を取つけたものは、従来の使用感覚に馴れた者に何等違和感を覚える事なく能率的に使用出来る。

ホ、第4図の第3実施例では、指間に突片10を挟んで他指で皮膚を握って往復操作するので、石鹸液等を均等に皮膚にすり込み作ら毛を剃るので、本発明の往復安全剃刀の切れ味を向上させる

- 5 -

第6図は本発明の第5実施例であつて、把手8の代りに、把手兼ライター13をベース1の上部に取付けたものである。

尚、この場合、ライター13と容器12を併置して、前記第4実施例の如く弾性体11を設けてもよい。

第7図は本発明の第6実施例であつて、把手8突片10及び把手兼容器12、ライター13に、支軸14を設けて、ベース1を回転自在に取付けたものである。

第8図は本発明に使用する剃刀の刃の形状を示すものであつてAは片刃であつて前刃5、後刃6何れにも使用出来る。Bは両刃であつて、ベース1の逆V字形の凹部4に適合、又は、近似の角度に折曲げたものである。

本発明の往復安全剃刀の効果は下記の通りである。

イ、往復安全剃刀は、前進(引く)時のみで、後進(押す)時は毛が剃れなかつたが、本発明の往復安全剃刀は、前進、後進共に毛が剃れるので非常に高効率である。

- 4 -

のみか、似上り状態が手指の感覚で容易に同時にわかるので、鏡がなくとも、又、老眼及び視力障害者にも容易に使用出来る。

エ、第5図の第4実施例では、石鹸液等が自動的に塗布されるので原々石鹸液等を塗る必要もなく、その都度、塗布されるので再三塗布する不便がない。又、常に携帯出来るので軍中格余り所を過ぎず又寸暇に剃剃りが出来る。

ト、第6図の第5実施例では把手8がライター12に取換えてあるので本発明の往復安全剃刀を携帯すれば、ライターにも使用出来、又、随時剃剃りも出来る。

チ、第7図の第6実施例では、ベース1が把手8に対し回転自在であるので、ベース1に取付けられている前後刃5、6は皮膚の曲面、傾斜に対し常に順応して密着するので円滑且つ能率的である。

本発明の往復安全剃刀は、常に刃を前後各1枚使用するので第8図Aの片刃を使用する時は、切れ味の落ちた方を取替えばよいので経済的であり、

- 6 -

板刃6を装着しないと従来形式に変更出来る便利がある。

図8図Bの刃刃は、取付けが1回で野島であり、又、ベースの凹所4の角度より若干大いのある場合は、取付けに誤し、ねじ、バネ等で押え具7にて刃の弾性に抗して圧すると、両刃の角度は凹所4の角度より大きい場合は両刃の角度はせめられて凹所4の角度に近ずき、反対の場合は両刃の角度は広げられて、凹所4の角度に近づくので押え具7の例えば締めつけネジを加減すれば、使用者に適合した刃の角度を得ることが出来る。又、両刃の角度の弾性によりスプリングワッシャー的効果による安定した取付け出来る。

ベース1の凹所4の角度に弾性を有する場合、例えば押え具7をネジ等で刃を締めつける場合、その締めつけの強弱によって、押え具7がベース1の凹所4を圧する力の強弱に応じて、凹所4が閉閉すると両刃も閉閉するので使用者に適合した刃の角度を得る事が出来る。(この場合、押え具7の角度は凹所4より広角である。)

- 7 -

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の第1実施形態を示す側面図、第2図は同じく正面図、第3、4、5、6、7図は本発明のそれぞれ把手に相当する部分を示し、他は1部を切除した第2、3、4、5、6実施形態の側面図。

- 1 …… ベース、2 …… 突片、3 …… 刃、
4 …… 凹部、5 …… 前刃、6 …… 後刃、
7 …… 押え具、8 …… 把手、9 …… 柄、
10 …… 突片、11 …… 握持部、12 …… 容器、
13 …… ライター、14 …… 支軸。

特許出願人 林 三 郎

- 8 -

手 続 補 正 書 (方式)

昭和55年2月22日

特許庁長官 川 原 龍 雄 様 宛 郵 政 局 長 官 様 宛

1. 事件の表示

昭和54年特許願 第119012号

2. 発明の名称

往復安全剃刀

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

郵便番号 213

住所 神奈川県川崎市高津区向ヶ丘

〒213 221の4

氏名

林 三 郎

4. 補正の対象

- (1) 願書の出願人の欄
- (2) 明細書の図面の簡単な説明の欄

図 1 図

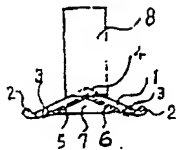


図 2 図

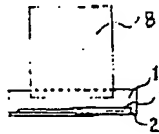


図 3 図

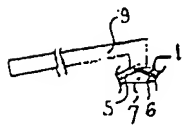


図 4 図



図 6 図



図 5 図

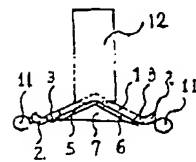


図 8 図

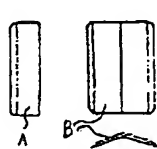
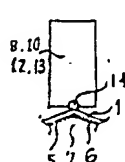


図 7 図



5. 補正の内容

(1) 別紙の通り

(2) 明細書第8ページ6行目「側面図A」の次
ぎに「第8図Aは片刃の平面図、第8図Bは
両刃の平面図と側面図である。」を追加する。